



大学入学前教育としての e-ラーニングの導入効果

—理学療法学科入学前教育プロジェクトの取り組み—

緒言

少子高齢化に伴い、我が国の大学進学者の多くを占める18歳人口は、平成4年度の約205万人をピークに減少傾向を示している。また、我が国の大学・短期大学への

戦後の進学率は、昭和50年代から平成2年頃まではほぼ横ばいだった期間を経て上昇し、27年度には大学・短期大学合わせて56.5%、高等専門学校、専門学校を含めれば79.8%となっている¹⁾。現在は、大学全入時代と呼ばれるようになり、大学生の学力低下問題が顕在化している²⁻⁶⁾。そのため、大学入学前教育の重要性が認識され様々な取り組みが行われている⁷⁻¹¹⁾。

1 保健医療学部理学療法学科教授

2 保健医療学部理学療法学科専任講師

3 保健医療学部理学療法学科助教

このような背景の中、目白大学保健医療学部理学療法学科では、より早期に大学への入学が決定するAO入試および推薦入試合格者に対し、大学入学時の基礎学力向上ならびに入学後からの学習意欲の向上を目的として、e-ラーニングを利用した入学前指導を実施した。本稿では、平成28年度入学者に対して導入したe-ラーニングの効果について検証する。

e-ラーニングの実施について

1. 対象者

平成28年4月入学予定者のうちAO入試および推薦入試合格者20名を対象とした。

2. オリエンテーション

第1回オリエンテーションを平成27年12月第2日曜日に約60分間実施した。まず、対象者全員にID番号を付与し、情報処理室にてweb上のシステムに各個人のIDを登録した。そして、書面資料を使用し、e-ラーニングの実施方法を指導した。また、大学側が、誰がいつどの課題を実施しているのかをモニターし、実施状況が予定通りでないものに対しては、メール等にて指導を行う旨を説明した。平成28年1月第2週には、第2回オリエンテーションを実施し、全体としてのe-ラーニング実施状況を約20分間説明した。

3. 学習方法

対象者が、携帯電話、スマートフォンもしくはパーソナルコンピューターを用いて、本システムのURLにてアクセスし学習するように求めた。

4. 課題

課題を課す日数は、平日のみの週5日間とした。内容は、英語、数学、理科、社会、一般に関する中学・高校程度の難易度の問題を1日6～7問提示し、回答を求めた。実施期間は、第1回オリエンテーションの翌週から、翌年1月第1週の正月期間の1週間を除いた3月第3週までの合計12週間（60日分）とした。

アンケート調査について

1. 対象者

e-ラーニング対象全20名を対象とした。

2. 調査期間

e-ラーニング課題期間終了後すぐに、web上にてアンケートを実施し、1週間以内にその回答を求めた。

3. 調査項目

①大学合格後の1日の平均的な学習時間、②大学合格後の学習習慣の維持、③課題の遂行状況、④予定通りに課題を遂行できなかった場合の理由、⑤1日の課題量の適正度、⑥1日の課題に要した時間、⑦課題の難易度、⑧課題の内容に対する満足度、⑨課題内容に対する不満点、⑩e-ラーニングに追加して欲しい科目と内容の10項目とした。

アンケート結果

19名から回答が得られた（回答率95.0%）。①大学合格後の1日の平均的な学習時間に関しては、1時間以上3時間未満が13名と最も多く、68.4%を占めていた（表1）。②大学合格後の学習習慣の維持に関しては、維持できたと概ね維持できたを合わせると94.7%とほぼ全員が学習習慣を維持できていると回答していた（表2）。③課題の遂行状況については、予定通り遂行できた、概ね予定通り遂行できたが15名（73.7%）と多数を占めたものの、予定通り遂行できなかった、もしくは課題を最後までやり遂げることができなかったものも5名（26.4%）いた（表3）。④予定通りに課題を遂行できなかった場合の理由を表4に示す。6名からの回答が得られた。何らかの他の事由が3名で、体調不良と忘れがちになったが、それぞれ1名であった。また、オリエンテーション内容の不理解によるものも1名いた。⑤1日の課題量の適正度では、丁度良いが13名（68.4%）と最も多かった（表5）。⑥1日の課題に要した時間につ

いては、30分程度が9名、1時間程度が10名とほぼ半数ずつであり、1時間30分以上を要したものはいなかった(表6)。⑦課題の難易度では、丁度良いと回答した者が12名(68.4%)と最も多かったものの、易しいが4名、難しいが3名とばらつきが認められた(表7)。⑧課題の内容に対する満足度については、概ね満足が11名(58.0%)と半数以上を占めていたものの、満足2名、やや不満5名、不満が1名と意見が分かれていた(表8)。⑨課題内容に対する不満点については、表9に示す8件の意見があった。すべて、システムに対する不満であった。⑩e-ラーニングに追加して欲しい科目と内容に関する意見は、全くなかった。

表1 大学合格後の1日の平均的な学習時間

大学合格後の1日の平均的な学習時間はどの程度でしたか？ 大学合格後から回答時点までの平均的な学習時間（高校での学習や自宅での学習を総合した時間）をご回答ください。	
1時間未満	3名(15.8%)
1時間以上、3時間未満	13名(68.4%)
3時間以上、6時間未満	2名(10.5%)
6時間以上、9時間未満	1名(5.3%)
9時間以上	0名(0%)

表2 大学合格後の学習習慣の維持

大学合格後も学習習慣を維持できましたか？	
維持できた	10名(52.6%)
概ね維持できた	8名(42.1%)
あまり維持できなかった	1名(5.3%)
全く維持できなかった	0名(0%)

表3 課題の遂行状況

予定通りに課題を遂行することができましたか？	
予定通り遂行できた	4名(21.1%)
概ね予定通り遂行できた	10名(52.6%)
予定通り遂行できなかった	4名(21.1%)
課題を最後までやり遂げることができなかった	1名(5.3%)

表4 予定通りに課題を遂行できなかった場合の理由・課題の遂行状況

予定通り課題を遂行できなかった、あるいは課題を最後までやり遂げることができなかった方はその理由をお書きください。

家の用事など。

体調不良、外出による疲れ等。

土日はやらない設定だったにもかかわらず、土日平日と毎日やってしまった。

免許合宿などで勉強する時間がとれずできなかった。

日にちが進むに連れてつい忘れがちになってしまった。

卒業試験の学習やアルバイト、自動車教習のため。

表5 1日の課題量の適正度

課題の量は如何でしたか？ 1日の課題量についてご回答ください。	
かなり多い	0名(0%)
多い	4名(21.1%)
丁度良い	13名(68.4%)
少ない	2名(10.58%)
かなり少ない	0名(0%)

表6 1日の課題に要した時間

1日の課題を終えるのにどのくらいの時間を要しましたか？ 全体を通しての平均的な所要時間を選択してください。	
30分程度	9名(47.4%)
1時間程度	10名(52.6%)
1時間30分程度	0名(0%)
2時間以上	0名(0%)

表7 課題の難易度

課題の難易度は如何でしたか？ 全体を通した難易度についてご回答ください。	
かなり難しい	0名(0%)
難しい	3名(15.8%)
丁度良い	12名(63.2%)
易しい	4名(21.1%)
かなり易しい	0名(0%)

表8 課題の内容に対する満足度

e-learningの内容は如何でしたか？	
満足	2名 (10.5%)
概ね満足	11名 (58.0%)
やや不満	5名 (26.3%)
不満	1名 (5.3%)

表9 課題内容に対する不満点

e-learningの内容にやや不満、不満とご回答いただいた方にお聞きします。どのような点に不満を感じましたか？
見づらかったり、誤字が多かった。
解答の間違いや問題文が見にくいところがありました。
答えが正解であっても×になったり、音声が出なくなったり、問題に不備があったりシステムがあまり整っていない点。
答えが合っているのに間違っていると判断されてしまう。
答えがあっているはずなのに、バツになることがある。
答えが間違っていることがあったため。
誤字脱字が多かった。
少し回答が間違っている部分や同じ回答をしていても間違っていると判断されてしまう時があった。

考察

対象者のほとんどのものの1日の平均勉強時間は30分～1時間程度であり、学習習慣を維持できたと考えていたものが大多数を占めていた。本e-ラーニング・システムの導入目的は、AO入試および推薦入試合格者が合格後には、気が緩み学習機会がないままに大学へ入学してくることを回避し、合格決定後にも学習習慣を継続させ、入学後からの学習へスムーズに移行させることである。したがって、このシステム導入の目的は概ね達成できたものと考えられる。課題の遂行に関しても、大多数が概ね予定通りに遂行できたと回答していた。一部、高等学校の春休み期間も含んでいるため、諸事情により大学が提示した予定通りには遂行できない可能性も多く

あると思われる。実際の回答からもこのような回答が多く見られた。しかし、アンケート未回収者が1名あるものの、脱落者が1名も出なかったことは、本e-ラーニングのシステムが有効に働いたことを示すものと考えられる。課題の遂行状況が悪いため、大学側から入学予定者個人へ直接連絡を取ることも無かった。課題内容に関する設問については、対象者全員1日1時間以内の学習時間であったが、課題量や課題の難易度に関しては、ばらつきが認められた。このばらつきは、基礎学力や学習に対する志向性の相違による可能性が考えられる。本調査の対象者は、AO入試および推薦入試合格者であるが、両試験選考方法は学力試験を伴わないものであるため、一般入試合格者に比べ多様な学生が多いことも要因であると考えられる。このe-ラーニング・システムに対する意見や不満は、すべてシステムの不備に対するものであり、我々の準備不足が露呈してしまった。今後は、これらの点を整備していく必要性が示唆された。また、本調査結果は、入学予定者の主観的な回答によるものである。今後は、客観的データによる検証を進めていきたいと考えている。

結語

保健医療学部理学療法学科AO入試および推薦入試合格者を対象に、入学前教育としてe-ラーニング・システムを開発、実施した。そして、実施後にアンケート調査を行った。

ほぼ全員が学習習慣を維持できたと回答しており、本e-ラーニングの目的は概ね達成できたと思われる。課題の内容に関しては、やや意見にばらつきが認められた。今後は、さらに客観的データに基づく検証を進めていく。

引用文献

- 1) 文部科学省編：平成27年度文部科学白書，日経印刷，東京，2018，209-230.
- 2) 石井秀宗，椎名久美子，前田忠彦，柳井晴夫：大学教員に

おける学生の学力低下意識に影響する諸要因についての検討, 行動計量学 34巻1号, 67-77, 2007.

- 3) 石井秀宗, 柳井晴夫, 椎名久美子, 他: 大学生の学習意欲と学力低下に関する大学教員の意識についての調査研究, 大学入試センター研究紀要 34巻, 19-58, 2005.
- 4) 沖花彰, 芝原寛泰, 武蔵野実, 坂東忠司: 大学生の学力度調査, フォーラム理科教育 6巻, 31-42, 2004.
- 5) 大村雄史: 大学生学力低下問題の構造分析, 生駒経済論叢 6巻2号, 71-92, 2008.
- 6) 吉岡良雄: 大学修了時の質保証, 21世紀教育フォーラム 6巻, 59-65, 2011.
- 7) 浜崎央, 片庭美咲, 松本美奈, 柴田幸一, 住吉廣行, 山本由紀: 初年次の退学率減少につながる入学前教育 教職協働によるIRの成果, 地域総合研究 14巻1号, 57-66, 2013.
- 8) 大河内佳浩, 小松川浩, 山中明生: eラーニングを利用した入学前教育と初年次教育への接続, 工学教育 60巻6号, 146-149, 2012.
- 9) 近藤伸彦, 本田直也, 石毛弓, 野波侑里, 奥田雅信: 受け入れ学生の多様化に対応するための入学前教育, リメディアール教育研究 7巻1号, 42-45, 2012.
- 10) 本多正尚, 島田康行, 大谷奨: AO入学予定者への学力補完ではない入学前教育, 大学入試研究ジャーナル 22巻, 271-279, 2012.
- 11) 森川修, 三宅貴也, 小山直樹: 学力試験を課さない入試区分合格者へのe-Learningを用いた入学前教育の実践, 大学入試研究ジャーナル 21巻, 231-236, 2011.